

ひまわりロードのひまわりも限界まで背を伸ばし、夏の終了を告げ始めています。夏の大地の風物詩 流しそうめん。昨日で劇的に終了し、こちらも夏の最後を告げているようです。それにしても、昨日の流しそうめんは史上最高のドラマでした。その雨たるや、滝のような雨。そうめん汁は、すぐに雨で薄まってしまうので、原液を入れて対応。雨具も全く役に立たないほどの雨。まさに、最後のそうめんにふさわしいドラマチックは一時でした。

雨風関係なく、午前中は野外で過ごす楽しみ、2学期開始は、高社の丘に完成した東屋のお陰で、ぐっと安定してスタートできました。まだ、焚き火は楽しんでいませんが、ここで、全員丸くなり（ケヤキの長椅子を7台設置したお陰で全員座れる）落ち着いて朝の会ができます。また、シンクや竈や石窯やテーブルも完備しているので、昼食も、ここでゆっくり楽しむ事ができます。まさに、全天候型であり、ガンガーに続く拠点になりそうです。

昨日の朝4時過ぎ、本当に美しい大地モルゲンロートを楽しみました。夕焼けは翌日好天、朝焼けは 荒天の証 と言いますが、昨日の大雨を予想したとおり、今まで見たこともないような真っ赤なオーロラのような光景が大地に訪れました。東屋や文庫ベランダから見た光景は、鳥肌が立つ美しさ、自然の移ろいでした。3000 級級の山から見るそれと、遜色ない光景でした。人工的な建物や明かりなども何もなく、空 山 森林 丘 田んぼ 林檎畑 草原 芝生 と、遠くから大地へ向けて、全ての景色がきれいに展開されています。

2人で、文庫のベランダに絨毯を敷いて、コーヒーを入れて、その光景を見ながら、感慨にふけりました。この地を開拓建設し続けて 30年以上（まだまだ継続中ですが）、本当に素晴らしい場所になってきたなあと、自己満足していました。

静かな早朝、特に 虫や鳥が目覚め、志賀高原の空が染まる大地の朝は、大地の魅力が一番感じる事ができる事ができます。それだからこそ、2学期も、大地の朝を満喫して下さい。



【だめ！と言うときは】

大地 青山家の夏は、様々なキャンプを健康第一で過ごし、大勢の子ども達と楽しむ事ができ幸せでした。若いときと変わりなく、ほとんど休日もなく、次々とキャンプを企画楽しみましたが、まさに 自分の生きがいです。

野外教室や幼児教室（幼稚園の前身）も、よく妻と会話しますが 大きな偉大なミッション（子ども達のため 社会のため）を掲げて始めたのではなく（もちろん、それもあります）、自分の楽しみで大地を開拓し 建設し、そして環境を作り そこで楽しんで自分たちが暮らしていたら、いつの間にか、人が喜び、少しは人のためになっていた と言うのが現実でしょうか。結局、自己本位の生き方だと、妻と一緒に笑っています。もちろん、のんたん母さんは、他者への愛がモットーですが。

静と動 光と陰 陰と陽 などとよく言いますが、こんな夏を過ごした後は、大きなリズムで ゆっくりじっくりと過ごす秋がやってきます。と言っても、身体面で静と言うことも含めて、心を落ち着けて動的に楽しむことも含まれます。身体面での静的なことは、読書や手作業や料理や芸術的絵画などですが、じっくりと紅葉を楽しみながら静かに登山を楽しむ、一人静かにこつこつと農作業や大工仕事や建設工事を行う事も、静的な動だと思っています。

今夏 久しぶりに 3000 級級まで、夫婦を含めて 子ども達と登りました。2年ぶりの本格登山でしたが、改めて山の素晴らしさと、自分たちのまだまだいける健康を自覚でき幸せでした。またふつふつと、登山熱が沸いてきて、この秋も、高所紅葉登山や、また海外への登山の憧れも出てきました。必死になって自分の限界に挑む、緊張感のある一時、歯を食いしばって継続して頑張れる自分 そんな世界は、やはり、長野に住んでいれば 登山が 一番 楽しみやすいものかもしれません。そんな意味で、家族登山をどんどん楽しんで欲しいと願います。

そんな怒濤の毎日の中、先日 久しぶりに 文庫のシュタイナー関連の本棚を見て、改めて 良い本があるなあ 参考になるなあ と探ってきて読んでみました。現在の大地の子どもへのあり方は、ほとんど これらの本から学んだ事であり、これらを中心に皆で勉強してきたものです。もし、子育てで行き詰まったり、悩んだり 疑問に思った事がありましたら、ぜひ、このコーナーを覗いて見て下さい。きっと ヒントがあります。

そんな ほんから、一部 改めて、新鮮な文章がありましたので 紹介します。

子どもに肯定的な言葉を使おうと気をつけていても、時には 「だめ」と言わざるを得ない時もあるでしょう。（いつも だめだめと言うことがほとんどですが どうですか？） シュタイナー教育のある教師は だめと言わねばならない理由（機会）は、三つしかないと言っています。

- ①子どもがしががっている事が その子にとって害になるとき（例えば 寒い日にジャンパーなしで外へ出るとき）
- ②子どもがしががっている事が 他の人にとって害になるとき（例えば赤ちゃんが寝ているとき大きな音をたてる）
- ③子どもがしががっている事が 本当のダメージになるとき（例えば クレヨンで壁に絵を描くとき）

但し 頭から対決するのではなく ①でしたら ジャンパーを着るのを手伝う ②でしたら、外で遊ぶか静かな遊びに誘うか ③でしたら 紙を手渡すか などの代替え内容を提案する。

何が子どもにとって害があるかを決定するには判断が必要です。そして、あなたが判断を適切に行えば行うほど、子どもにとっては良いのです。「だめ」と言い過ぎず 子どもの行動を中断しないことで、子どもが自分の経験を得られるよう手助けできれば、子どもは世界と自分の能力について本当に多くの事を学ぶでしょう。

そして、「だめ」と言う前に、子どもが本当は何をしようとしているのかをはっきり理解しておくことが大切です。

これらの文章の中でのポイントは、判断の基準です。他人への迷惑基準 自分の身体へのダメージ基準 社会の秩序基準等は、人それぞれ様々な基準尺度だからです。あまり好きではない言葉ですが、現在では それらを多様性 などの言葉で ごまかしてしまうような場面も見受けられます。秩序的にわがままなのか自分勝手なのか、気持ちの良い多様性なのか、気分がざわざわする多様性なのか・・・

「だめ」の判断基準は、見ていても行っている、穏やかで 平和で 健康で 安らぎのあるものなのか、微笑みが浮かぶものなのか、争いや憎しみなどが無い和やかな世界を秩序を持って 維持できる世界なのかを 家族の世界で感じて 判断することが まずは 第一歩かもしれません。

更に 大切なことは 「だめ」には 首尾一貫する事が とても大切ですね。